

研究タイトル：英語教師の認知・感情調整方略と 学習者の行為主体性の探求



氏名：	菅野 雅代/KANNO Masayo	E-mail：	mkanno@sendai-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(教育)
所属学会・協会：	全国高等専門学校英語教育学会, 日本質的心理学会 大学英語教育学会, 全国語学教育学会, AsiaTEFL, BAAL		
研究分野：	教育学, 言語学		
キーワード：	言語教師認知, 感情制御, 学習者の行為主体性, 英語教材開発		
技術相談	・各種英語技能試験 (TOEIC, TOEFL, 英検など) の学習支援 ・英語教材作成		
提供可能技術：	・定性的研究に関するアドバイス ・アカデミックライティング, 英会話学習支援		

研究内容：

●英語教育における教師認知と感情調整方略

高等教育機関における英語教育は、学習者の意欲や習熟度が多様であり、知識や技能を一方向的に伝えるだけでは不十分です。そのため、教師側の目的意識や授業での取り組みを調査しています。これまでの質的データ分析の結果、教師が教育活動を一層有意義にするべく、目標や仕事内容を柔軟に再検討する姿勢が示唆されました^[1]。教師が無意識下で行っている感情調整方略をさらに探求し^[2]、現場での教師育成支援の可能性について考察しています^[3]。

●学習者の行為主体性

英語学習者の学習意欲の変遷を、行為主体性という観点から調査しています。これまでの研究結果から、自らの将来像や教室内外の社会文化的要素が学習意欲に大きく影響すること、協働的な学習環境を維持することが学習活動の社会的意義を高める上で不可欠であることが明らかになりました^[4]。また、仙台高専生の英語学習における動機付けや自己認識を探求するアンケート調査を実施しました。その結果を分析し、より効果的な授業実践につなげます。

●英語学習教材の開発と教育効果の測定

大学英語授業で使用使用する教科書を共同制作しました^[5]。英検や TOEIC 等の試験に頻出の表現を効率的に学べるよう、協働学習を取り入れた教材で、英語4技能の強化を目指しています。また、学術的な文章読解力向上のためのリーディング教材を作成し、修辭的読解指導の有効性を探りました^[6]。事前・事後テスト分析結果から、読解指導プログラムが読解ストラテジーの使用促進に効果をもたらしたことが分かり、得られた知見を授業活動に取り入れています。

[1] 2024. "I don't see this as a lost cause.": English as a foreign language teachers' job-crafting practices in the Japanese HE context." EdD thesis, University College London.

[2] 2025. "Bridging expectations and reality: Emotion regulation in university English teachers." 日本質的心理学会第 22 回大会.

[3] 2025. "The power within: Recognizing and reinforcing teacher resilience." 全国高等専門学校英語教育学会第 48 回研究大会.

[4] 2020. "Apathy, agency, and sociocultural mediation in a university English course." JALT Postconference Publication, 144-150.

[5] 2018. "Core English for global communication." Co-authored with Jannuzi, C. 朝日出版社.

[6] 2019. "The use of research articles in an ESP course for Engineering undergraduates –An investigation into the effectiveness of a genre-specific rhetorical approach–." Co-authored with Taoka, H. 福井大学大学院工学研究科研究報告第 67 巻, 65-73.

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	